

乗鞍岳周辺のセイヨウタンポポ除去活動について

中信森林管理署 大野川森林事務所 森林官	○	井出 崇彦 せき 関 寿治
平成21年度グリーンサポートスタッフ乗鞍班	○	まつもと みちお つぎた ようこ
同		
同		

要 旨

中信森林管理署では、平成18年度より天然生林管理水準確保緊急対策の活動として、臨時雇用職員による活動（グリーンサポートスタッフ（以下“GSS”という。））が始まりました。

GSSの活動内容、平成21年度セイヨウタンポポ除去イベント、二年間実施したセイヨウタンポポ除去の効果について報告します。

はじめに

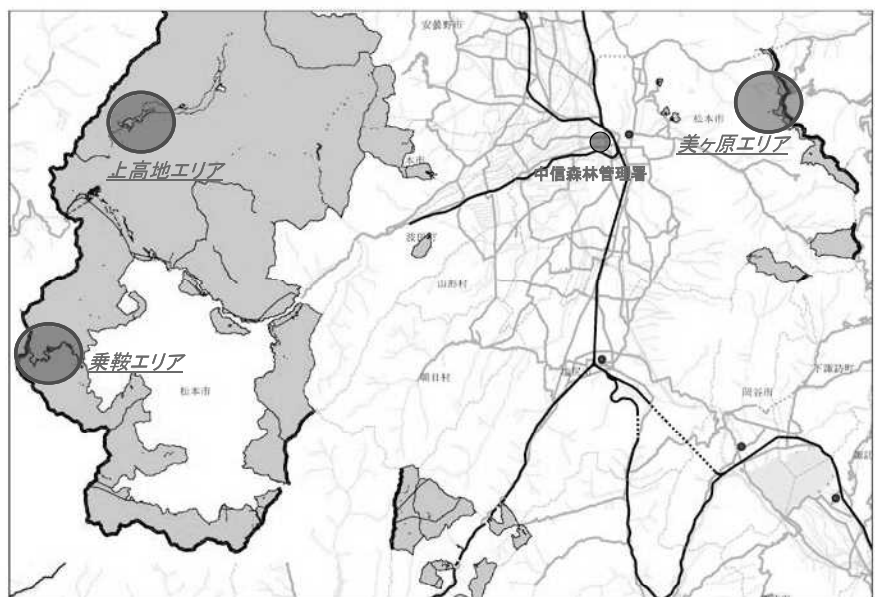
GSSの活動を行ってゆくなかで、県道乗鞍岳線沿線にセイヨウタンポポの移入が多く目に留まるようになりました。在来種ミヤマタンポポとの交雑による遺伝子攪乱の可能性を考え、在来種の保護及び自然公園・保護林としての貴重な景観を保全するため、保護して欲しいと利用者等から要望があり、平成20年度より除去活動を開始しました。

1. GSSの活動内容

中信森林管理署部内のGSS活動区域は、松本市東部の美ヶ原エリア、松本市西部旧安曇村の上高地エリア・乗鞍エリアの3箇所です。（図－1）

各箇所とも全国的に有名な山岳観光地であり、夏場の観光客や登山者の入り込みが大変多く、そのエリアの特色に合わせた活動を実施しています。

乗鞍エリアでは、登山者のマナー啓発活動として登山道のゴミ拾い、高山植物保護する為に踏み荒らし防止のグリーンロープの設置、植物の摘み取りや登山道以外の場所へ立ち入らないようにパンフレット配布による啓発活動を、飛弾署GSS、長野県自然保護レンジャー、岐阜県高山植物パトロール隊、乗鞍高原パトロール隊と共同で実施しております。



(図－1) 中信森林管理署 GSS 活動エリア

2. セイヨウタンポポ除去活動

(1) 活動の始まり

高山植物保護活動を続けてゆく中で、県道乗鞍岳線（乗鞍エコーライン）周辺に外来植物のセイヨウタンポポがアルファルト舗装の亀裂に線上に目立つようになりました。（写真－1）古くから乗鞍岳を訪れている利用者の方からも『ここ数年でセイヨウタンポポが増えている。』という声が聞かれ、行動を共にする仲間からも、在来種の保護と自然公園・保護林として貴重な景観を保全するために、セイヨウタンポポを除去したいという要望も出され、各関係行政機関と連携するなかで、平成20年度地域発案システムの取り組みとして、セイヨウタンポポ除去活動を進めてゆくことを決定しました。また、セイヨウタンポポ除去活動と同時に、乗鞍高原温泉スキー場周辺に生育しているアラゲハンゴンソウについて、これ以上生育域を広げないよう長野県自然保護レンジャーの方と共に除去活動を実施しました。



（写真－1）セイヨウタンポポ

平成21年度セイヨウタンポポ除去イベント

(2) 平成21年度セイヨウタンポポ除去イベント

平成21年7月4日に地元小学生、長野県自然保護レンジャー、長野県職員、森林インストラクター、環境省職員、森林管理署OBの総勢31名でセイヨウタンポポ除去イベントを実施しました。（写真－2）当日、作業前に信州大学土田先生による乗鞍岳周辺での外来植物繁殖の問題点



（写真－2）除去イベント

（図－2）の講義と総苞外片の違いによる外来種セイヨウタンポポと在来種ミヤマタンポポ・シナノタンポポとの簡単な見分け方（写真－3）の講義を受け作業を開始しました。半日程度の作業の結果3,500本のセイヨウタンポポを除去し、参加者には外来植物繁殖の問題点について、地元乗鞍岳の自然の素晴らしさについて、作業を通じ知ってもらうことが出来ました。

乗鞍岳周辺での外来植物の繁殖の問題点

- ◇在来近縁種との交雑による遺伝子攪乱
- ◇病原菌の侵入と外来植物繁殖による在来植物への影響
- ◇お花畑景観への影響
- ◇高山生態系の破壊

（図－2）土田先生による講義概要



総苞外片の形状の違い

在来種：ミヤマタンポポ

外来種：セイヨウタンポポ

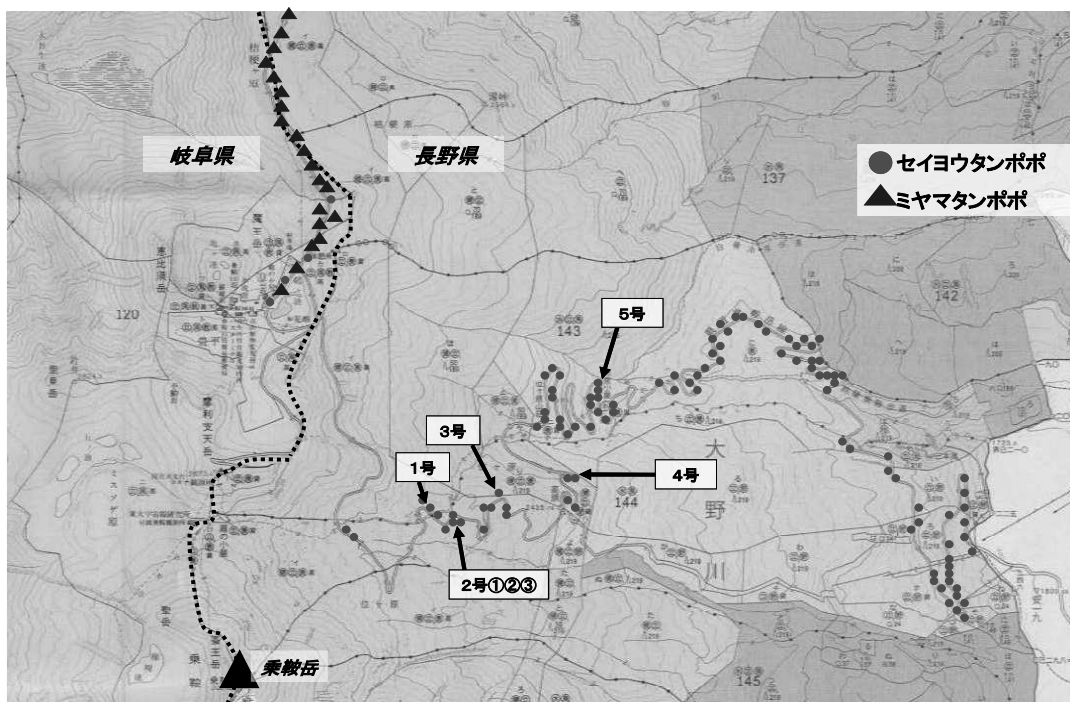
(写真－3) 総苞外片の違いによる在来種と外来種の見分け方

3. セイヨウタンポポ除去の効果

セイヨウタンポポ除去の効果について検証するために、平成20年度よりプロットを7箇所（1号～5号）設定し調査を実施しました。

(1) 乗鞍岳周辺のセイヨウタンポポ分布

セイヨウタンポポとミヤマタンポポの生息状況について、県道乗鞍岳線沿線の状況を目視により調査した結果を図示しました。(図－3) ミヤマタンポポは岐阜県側にセイヨウタンポポは長野県側に多く生育している実態になっています。



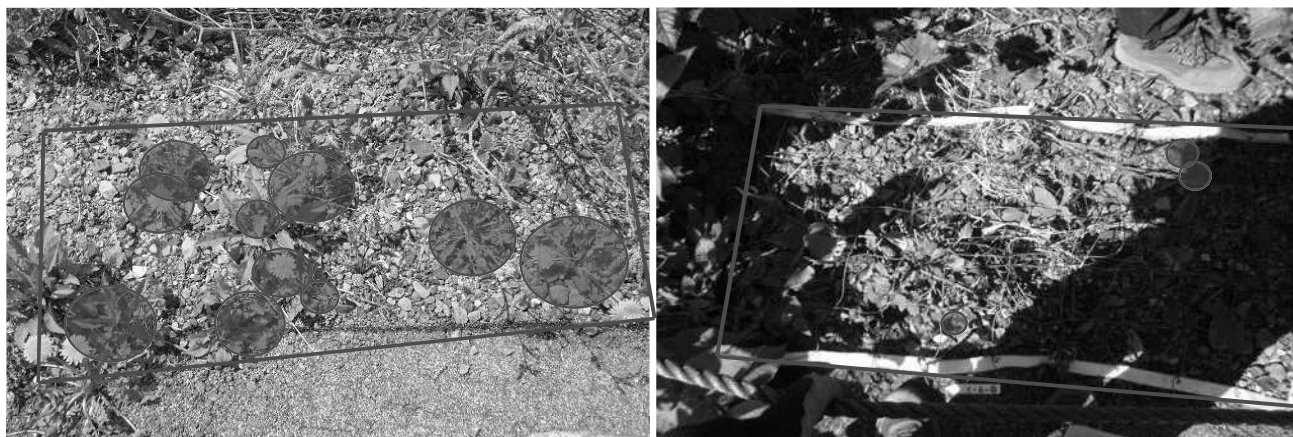
(図－3) 乗鞍岳周辺のセイヨウタンポポ・ミヤマタンポポ分布図とプロット位置図

(2) プロット調査結果

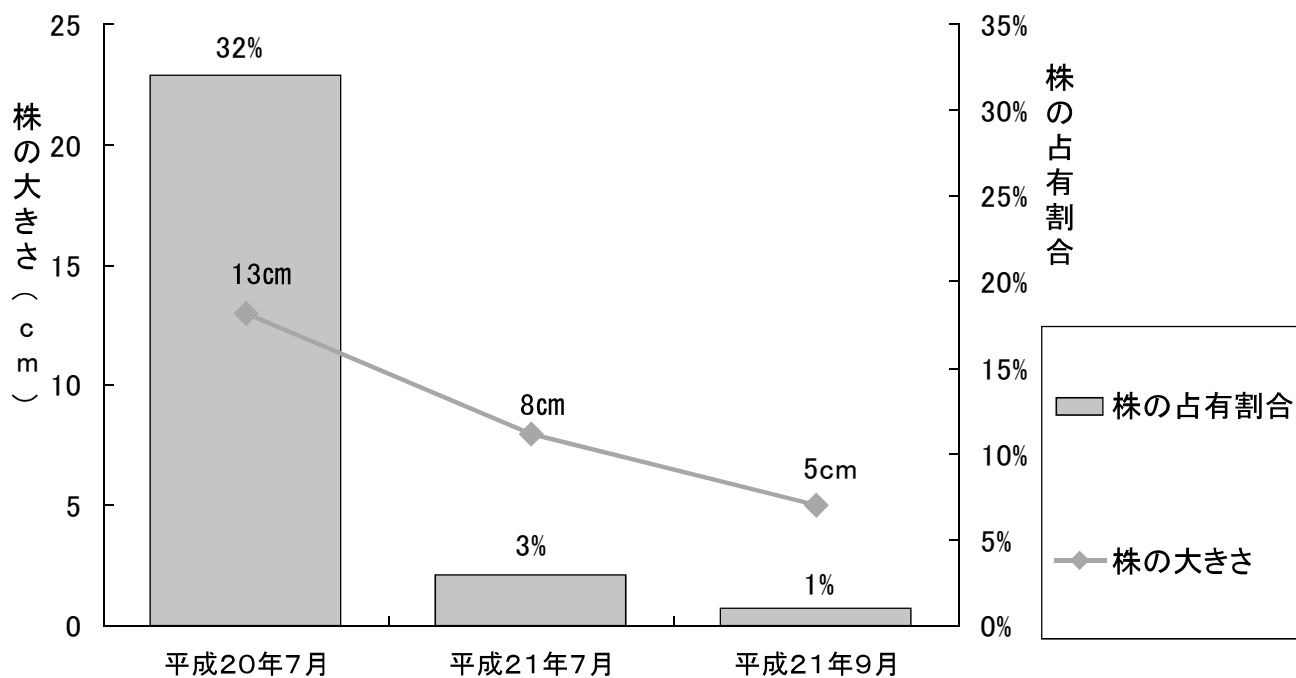
県道乗鞍岳線沿線に縦50cm横100cmのプロットを設定し株の占有面積、数、大きさについてどのような変化がみられるか調査観察した結果、特に変化の大きかった2号①及び4号の2箇所について報告します。

ア 2号①プロット

平成20年7月の時点で11株あったセイヨウタンポポは、平成21年9月には3株に減少(写真-4)するとともに、株の大きさ及び占有面積も減少している傾向が確認できました。(グラフ-1)



平成20年7月(11株) 平成21年9月(3株)
(写真-4) 2号①プロット



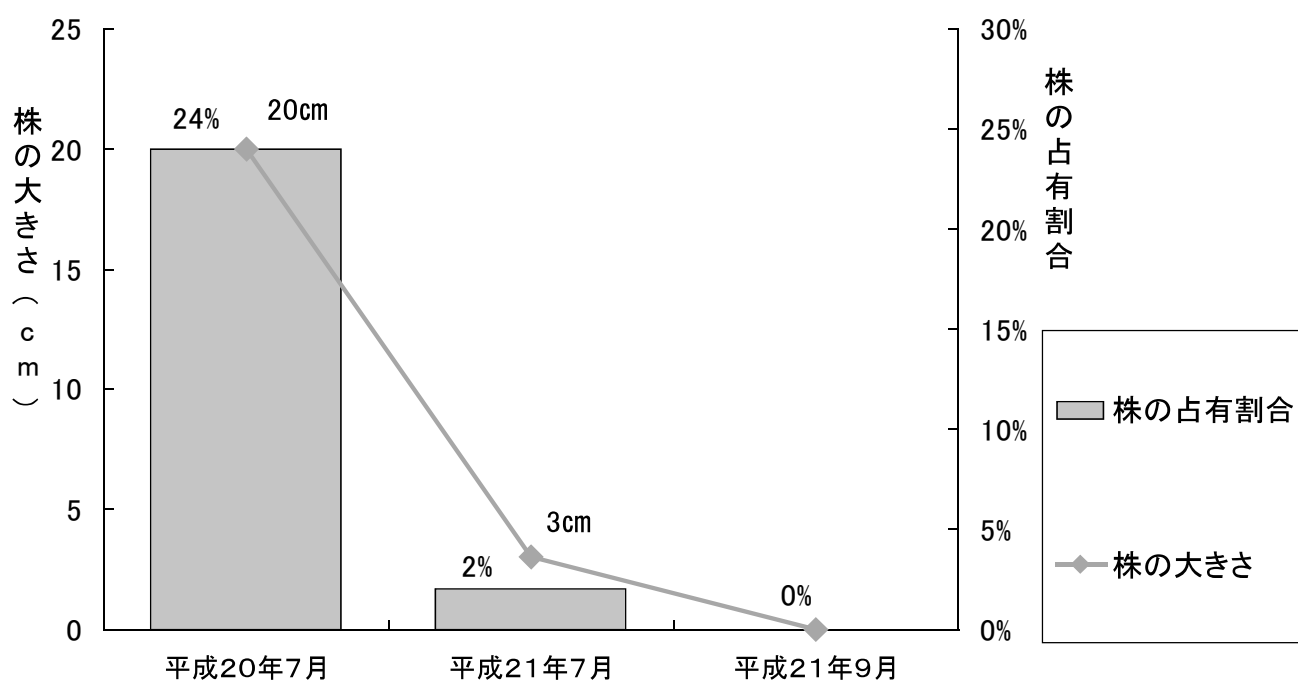
(グラフ-1) 2号①プロット株の占有割合と大きさ

イ 4号プロット

平成20年7月の時点で4株であったセイヨウタンポポ（写真-5）は、平成21年9月には確認出来ませんでした。（グラフ-2）



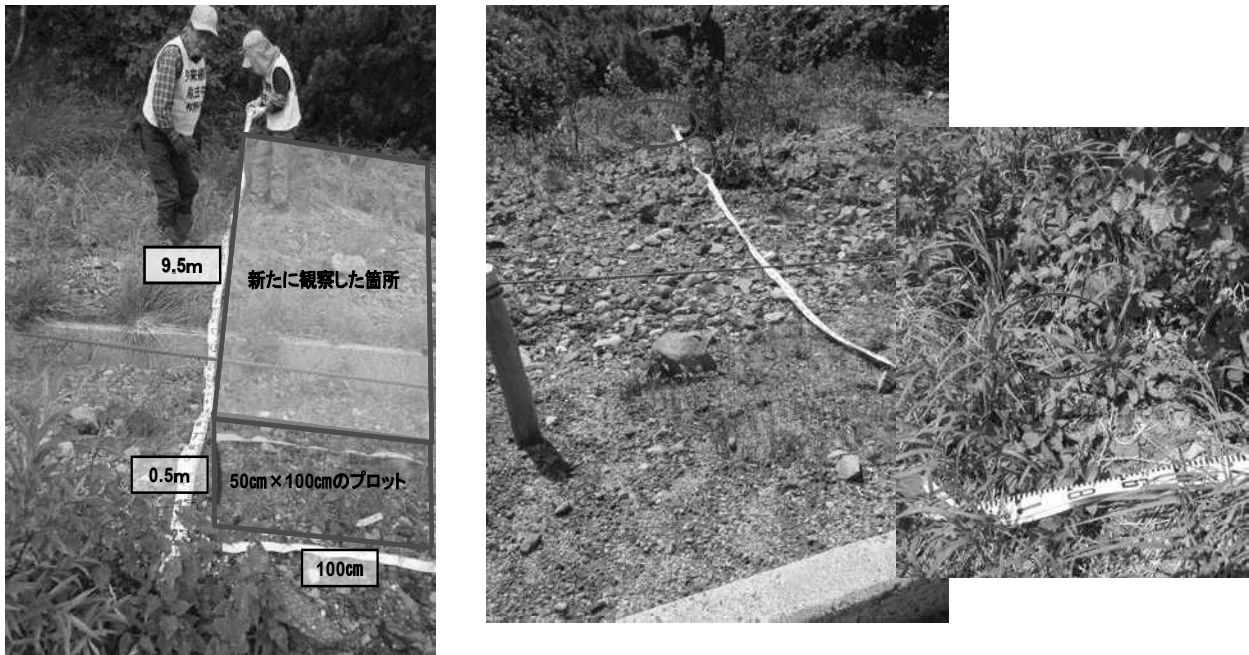
平成20年7月（4株）
（写真-5） 4号プロット
平成21年9月（0株）



（グラフ-2） 4号プロット株の占有割合と大きさ

（3）平成21年より新たに設定したプロット

セイヨウタンポポは、アスファルト舗装周辺及びアルカリ性土壌を好んで生育すると言われています。平成20年度の除去活動結果より『セイヨウタンポポはアスファルト舗装からどれくらいの移入があるか。』という疑問が出されたことから、平成21年度より新たに縦9.5m横1mにプロットを拡大し観察を続けました。（写真-6）その結果、ハイマツ等の植生があり太陽光が地表まで到達していない箇所はセイヨウタンポポの確認は出来ませんでした。しかし、太陽光が届く場所では、県道より5mの箇所まで移入が見られました。



(写真-6) 新たに設定したプロットと移入しているセイヨウタンポポ

4. 考察と今後の課題

プロット調査結果からも解るように、除去活動を継続して行うことにより株の占有面積割合、株の大きさについて減少し目立たなくなっていることが観察結果から解りました。除去方法については、セイヨウタンポポは根が大変深く除去しても再び発生することから、根絶するために効果的な方法を今後検討し実行していきたいと考えます。

また、除去の時期や作業間隔については、今後もパトロールを続ける中で観察し検討していきたいです。

おわりに

県道乗鞍岳線沿線では除去活動を継続して行うことでセイヨウタンポポが目立たなくなってきました。今後、岐阜県側の除去活動との連携や地元関係機関と連携し、在来種保護及び乗鞍岳景観の保全に資するために除去活動を継続してまいります。